

今週は「神の時」をキーワードに思いを巡らせましょう。

●12月14日(月) 詩篇 77:12

私は、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたのみわざを、静かに考えよう。

私たちは時の中を生きています。ヤコブは「私のたどった年月は百三十年です。私の年の年月はわずかで、ふしあわせで、私の先祖のたどった年の年月には及びません。(創47:9)」と語りました。どんなに長生きしたとしても地上の生涯には限りがあり、今のこの時代の中でしか生きることができません。創造から終末に至るまでの神のみわざ、主イエスの誕生、それが私の人生とどう関わっているのか、いただいた恵みの数々を静まって振り返ってみましょう。静まらなければわからない大きな恵みに改めて気付くはずです。

●15日(火) ルカ 1:26, 30

ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た…御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。」

神の時は不思議です。どうして今、私に？ 周りを見渡して、他の人でもと思うようなこともしばしば。マリヤもそうでした。彼女には彼女なりに描いた将来がありました。それ

をこの時、捨てなければなりませんでした。処女である私が身ごもるなんて途方もないこと。周りにどう話したら信じてもらえるのか。事実、この後、ヨセフは内密に去らせようとします。しかし、これは神の時、すべてが整えられ、守られます。

マリヤの生涯、それは驚きの連続でしたが、彼女はこの時、すべてを受け入れる決心をしたのです。あなたはどうでしょうか。自分の計画や願いを捨てて、神のみこころに従う用意がありますか？



●16日(水) ルカ 2:6, 7

ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

ナザレから住民登録のために旅したベツレヘム、そこでイエス様は産まれます。「ところが」とは、何を意味するのでしょうか。彼らの時、計画では出産を控えたマリヤ、旅を終えナザレで産むつもりだったのかもしれませんが。ところが宿屋ではなく飼葉おけ、羊飼い

や東方の博士の来訪、シメオンとアンナの預言、この後、身の危険を知らされ、ヘロデが死ぬまでエジプトに逃れます。まったく思ってもみなかったようなことが次から次へと起こりますが、マリヤは「思いを巡らします」。

私たちも時をコントロールできません。思うにまかせないことが次々起こります。その意味さえわからない。でも、その一つ一つは神の御手の中であって、ご計画のために用いられる。マリヤもそうでした。

今はわからないけれど、すべてのことが御手の中であって神の最善であると信じ委ねること。あなたはどうか？

●17日(木) マタイ 4:17, 28:18

この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」…「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」

その時が来ると、イエス様は神の国を宣べ伝え始めます。病をいやし、悪霊を追い出し、五千人を養い、嵐を静めます。それらはすべてしてしるし。一方で神の国のいのち、生き方を教えられます。その中心は十字架と復活。時すでに終わったと誰しもが思った三日後、イエスは死に打ち勝ってよみがえり、神の国の王であることを宣言します。まさに天の御国が来たのです。

イエス様を信じるとは、人生に王をお迎えすることです。ヘロデは新しい王に脅威を感じます。自分の思いのままをするために妻や

自分の子までも殺した彼はイエスの誕生に恐れをいだき、幼児虐殺までします。一方、博士たちは東方からはるばる旅して王を拝しました。よみがえりのイエスの前に弟子たちは御前にひれ伏し、いのちを差し出し仕える人に変えられました。

あなたは自分のいのちに王であるお方を迎え入れ、拝し従いますか？神の国、そのご支配を喜びもってお迎えしていますか？



●18日（金）2ペテロ 3:9

主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

私たちの世は、すでにノアの時に滅ぼされるべき世でした。あわれみによって選ばれたイスラエルはみこころにかなわず、神に立ち返るよう語り続けられても拒み続ける頑迷な民でした。その姿は決して人ごとではありません。それにもかかわらず、主はひとり子イエスを送って下さった。それは「愛」ゆえ。

そして、すべての人の救いを願い、さばきの時を延ばしておられるのです。

あなたの目にはあきらめに映ることも、神は「すべての人」の悔い改めを願っておられるのです。神の恵みの時を覚えて、とりなし祈るべきことを求められてはいませんか？

●19日（土）伝道 3:11

神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。

クリスマスのストーリー、それは預言者たちを通して語られたメシヤ、道備えをするヨハネの誕生、それに関わるザカリヤとエリサベツ、選ばれたマリヤとヨセフ、迎え喜ぶシメオンとアンナ、羊飼いと東方の博士たち、ベツレヘムの町と人口調査の時…。さらにそれは十字架と復活、異邦人の使徒パウロから遠く地の果てにまで、時代を超えて営々脈々と受け継がれてきました。

神は綿密な計画を遠い昔からお立てになりました。時を備え、一つ一つの出来事の断片がパズルのピースのように組み合わさって大きな、そして豊かな神の愛を伝えています。

私たちひとりひとりが救いに導かれたのも、それぞれに神の時がありました。計り知れない神のあわれみと恵みの中を生かされているのが私たちです。私たちの理解は限りがありますが、今、この時、神をほめたたえ、賛美と感謝と喜びをおさげしましょう。

みことばと共に行くアドベント

2015

第3週

